

レジ袋有料化

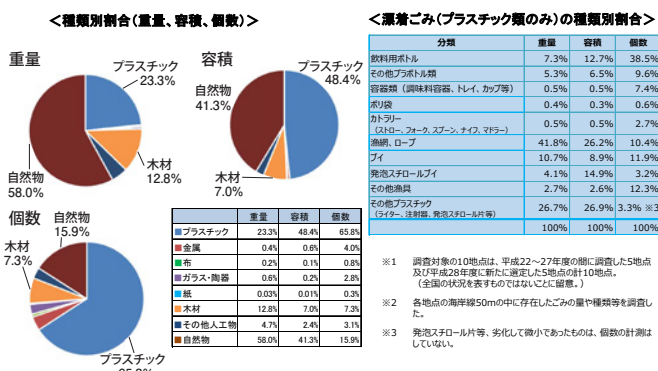


7月1日から、全国の小売店でプラスチック製買物袋(いわゆるレジ袋)の有料化が義務付けられました。レジ袋は耐久性があり、かさばらず、軽く、家庭でのゴミ袋として再利用できるなど利便性が高いことで広く用いられてきました。その反面プラスチック全般に言えることですが、自然環境下では分解されにくく、特に近年プラスチックによる海洋汚染が問題となっています。2050年までに海洋中に存在するプラスチックの量が魚の量を超過するとの予測もあります。海洋プラスチックごみの状況について、環境省の漂着ごみモニタリング調査結果を見ると、プラスチックごみの内訳では重量・容積ベースとも漁網・ロープが高い割合を占め、個数ベースでは飲料用ボトルが多く、ポリ袋は重量・容積・個数ベースで1%未満となっています。

そうしたなか、レジ袋の有料化が、プラスチックゴミの削減につながるかどうか疑問視する向きもあります。経産省では「普段何気なくもらっているレジ袋を有料化することで、それが本当に必要かを考えていただき、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとすることを目的としています」と説明しています。プラスチックの過剰な使用を抑制し、賢く利用するために何ができるのか、あらためて考えてみましょう。

我が国での漂着ごみ調査結果 (種類別割合)

- 平成28年度全国10地点(稚内、根室、函館、遊佐、串本、国東、対馬、五島、種子島、奄美)で漂着ごみのモニタリング調査を実施。※1、2
- 種類別では、重量ベースで自然物が、容積及び個数ベースではプラスチック類が最も高い割合を占めている。



環境省ホームページより

マネジメントレビュー

マネジメントレビューとは、マネジメントシステムが適切で効果的な活動として継続しているかを、経営者(トップマネジメント)を含めてレビュー(再検討)する活動で、ISOの要求では、適切な間隔で実施する必要があります。

例年、春に社長はじめ管理責任者と委員が集まり行っていましたが、今年は書類確認で進行しました。昨年度は島田PCでは「歩留まり改善」、本社では「作り直し・刷り直し削減」を全社の目的・目標として活動してきました。社長からは、その達成状況に関しては一定の評価を、そして今後については、新たにSDGsに対しても会社として具体的な目標を設定して取り組みたいとのコメントをいただいています。

新型コロナウイルス

新型コロナウイルスの国内感染が初めて確認されてから約半年がたち、国内感染者は3万人を超え、死者も1千人以上に達しています。1日当たりの感染者数は最初のピークだった4月上~中旬以降いったん減少しましたが、7月に入って都市部を中心に急増し、過去最多の人数が確認されるなど、感染拡大に歯止めがかからない状況が続いています。

当社としては8月以降も引き続き、在宅勤務・時差出勤・自宅待機の対策を継続していくことを決定しています。

JS環境委員会短信

今年は梅雨前線が本州付近に停滞しやすい状態が続く、記録的大雨や災害をもたらしています。関東の梅雨明けは8月に入ってからになりそうですが、その後は猛暑も予想されています。体調管理に気をつけましょう。

本社 環境委員会メンバー

委員長：下鳥治

委員：小井土昌弘 河野純一 庄司亜佐子

曲師里奈 森智史

